



Hello Kitty

豊橋市美術博物館友の会だより

-2014年-春号 Vol.88

FU風伯HAKU
Spring 2014

展覧会紹介

ハローキティアート展

平成26年3月30日(日)まで開催 月曜日休館
豊橋市美術博物館1階展示室

1974年の誕生から40年。キティは今やサンリオの1キャラクターとしてのみならず、他企業とのコラボレーションを通じ、海外を含むさまざまな場面で愛されています。そんなキティが豊橋市美術博物館にやって来ました。美術館を舞台に、これまでと異なるどんな表情を見せてくれるのでしょうか。見どころをお伝えします。

見どころ① キティ博物館～デザインヒストリー～

1974年から2010年の間に制作されたデザイン画が一堂に会します。「みんなが好きなものはキティも好き」というコンセプトの通り、その時代時代の流行を敏感に取り入れ、いつまでも人々を飽きさせません。少しずつ変化を遂げていくキティの姿をお見逃しなく。

見どころ② キティ博物館～ご当地キティ大集合～

1998年の北海道の「ラベンダーキティ」がご当地キティ第1号。旅先でご当地キティを見つけることが楽

しみだった方も多いのではないでしょうか。今流行の「ご当地キャラ」を一人(匹)で担ってきたキティは偉大です。本展では、全国のご当地キティが大集合。もちろん「豊橋ちくわキティ」もあります!

見どころ③ キティ美術館～キティが現代アートに～

現在のような人気キャラクターとなったのは、1980年から3代目デザイナーを務める山口裕子さんによるところが甚大です。山口さんはデザイナー就任直後からサイン会を開いてファンとの直接対話を大切にし、愛されるキティを作り上げてきました。そんな山口さんが本展のために描きあげた絵画とオブジェ17件により、現代アートとしてのキティをお楽しみください。



《いちごキティ》2011年 ©'76.'11.'14 SANRIO

二川宿本陣まつり「ひなまつり」

平成26年3月16日(日)まで開催 月曜日休館
豊橋市二川宿本陣資料館

五節句の一つである3月3日の上巳の節句(ひょうじゅく)は、桃の節句とも呼ばれ、古代中国より伝わった邪氣を祓う行事でした。女児の初節句を祝う雛まつりとなったのは、江戸時代に入ってからです。初めは紙製の立ち雛でしたが、寛永期に座り雛が作られ、江戸後期には段飾りや御殿飾りが登場します。雛人形はいろいろに変化しながらも、今に続いています。

二川宿本陣資料館では、今年も二川宿本陣まつり「ひなまつり」を開催しています。二川宿旧家に伝わる江戸末期の雛人形から、明治・大正の内裏雛、昭和30年代までよく見られた御殿飾り、豪華な七段飾りなど、様々な雛人形・雛飾りが二川宿本陣と旅籠屋「清明屋」を舞台に飾られています。また、今年は企画展示室にも展示が広がり、暖かい中で雛人形、土雛や雛まつり

を描いた浮世絵などがご覧いただけます。

さらに、「つるし飾り愛好会」によるつるし飾りの人形で春の風景を表した作品や、「つるし飾りの会」による可愛いつるし飾り、「楽しい折り紙の会」の雛飾り作品がひなまつり会場を華やかに彩っています。

本陣内は冷え込みますので、ぜひ暖かい服装でご来館下さい。ゆっくりと「ひなまつり」を楽しんでいただけたら幸いです。



本陣板の間の雛飾り

柴田家文書展 吉田藩士の地図コレクション

| 地域から世界を見る |

平成26年3月23日(日)まで開催 月曜日休館
豊橋市美術博物館2階展示室

現在わたしたちはインターネットをはじめさまざまな方法で多くの情報に接することができますが、江戸時代の人々はどのように情報を集めていたのでしょうか。

江戸時代後期の吉田藩士柴田善伸は、農政や年貢収納を担当しながら、鈴木春山や箕作阮甫などの学者たちと交流をもつことで、海外情報を入手したり測量術などを学びました。そして、それを自身の仕事上に活かそうとしました。彼の残した地図コレクションもそうした交友と知識に対する欲求から形づくられたものです。

本展では司馬江漢や高橋景保の世界図をはじめ、国絵図・名所図・瓦版などを中心に展示を行い、またあわせてその収集方法の一端を紹介いたします。

展示構成

- ①吉田藩士柴田善伸について
- ②地域を知る
(地方役人の仕事、眺望図製作と測量術)
- ③日本を知る
(日本図・国絵図・名所図とその収集)
- ④世界を知る
(世界図、海外情報と天文)
- ⑤世情を知る
(災害情報)
- ⑥柴田家のひとびと



①るせが書いた父善伸の肖像画



②善伸が作った新田の測量図



③善伸がはじめて写した日本地図



④はじめて出版された銅版日本図



⑤善伸が書写した宝永地震の記録



⑥善伸が10歳の頃買ってもらった双六

柴田家文書展オリジナルグッズを販売します!

展覧会開催を記念し、以下のグッズを作成しました。豊橋市美術博物館でしか手に入らない貴重なアイテムです。また、先の収蔵品展「墨のいろ」で人気の高かった平川敏夫・中村正義・白井烟嵐・渡辺小華・佐藤多持の作品絵ハガキも新たに加わりました。この機会にぜひ、お求めください。

- 絵ハガキ2種=歌川芳員「百種怪談妖物双六」部分:各100円
- 一筆箋=司馬江漢「地球図」:300円
- ミニクリアホルダー2種(A5サイズ)=歌川芳員「百種怪談妖物双六」部分
司馬江漢「地球図」:各100円

ハガキやチケット入れに最適!

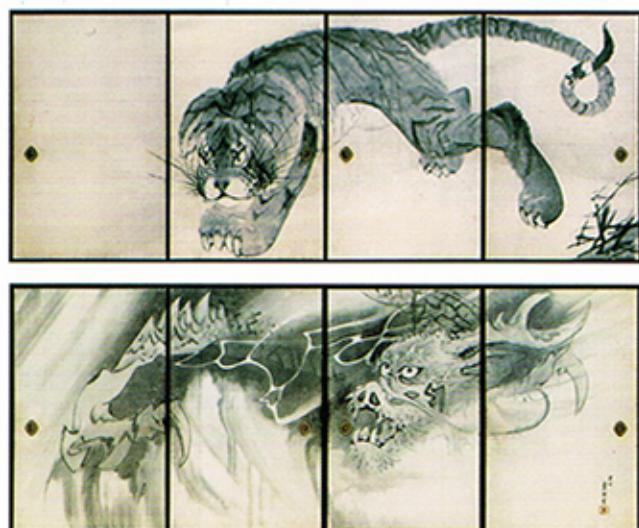


絵の面に書き込みのできる妖怪絵はがき(左)と「地球図」一筆箋(右)

寄稿

蘆雪画の魅力

昨年12月に友の会の土曜美術サロンで長澤蘆雪についてお話をいただき、私の旦那寺である嵩山町・正宗寺の蘆雪画も含め日本全国と海外にある主要な作品について画像で紹介しながら、その魅力について触れさせていただきました。今回、そのまとめをということで、気になっている点について思いつくまま書いてみました。



無量寺 《虎図》と《龍図》（いずれも重要文化財）

長澤蘆雪は、江戸時代の京都画壇で伊藤若冲や曾我蕭白とともに異端の画家、さらには奇想の画家などと呼ばれるほど個性豊かな空間構成と卓越した技で当時の人々を驚かせ、現代人まで虜にしてしまう不思議な魅力を持った画家で、その類まれなるエンターテイナー振りに展覧会や作品を見るたびに驚かされます。

2011年の春、大規模な長澤蘆雪の展覧会を見る機会に恵まれました。滋賀県のミホ・ミュージアムで開催された、その展覧会は「奇は新なり」というテーマで、82年ぶりに発見されたという方寸五百羅漢図(3.1cm四方に象や唐獅子などとともに多くの羅漢が描かれている)が話題となり、多くの観客で賑わっていました。以前、豊橋市美術博物館の展覧会で借用した作品にも久しぶりに会うことが出来ました。

また、昨年10月に開館した箱根の岡田美術館では、偶然にも今まで見たことのない蘆雪の屏風にめぐり会うことが出来ました。《牡丹花肖柏図》といい、室町時代の

後藤清司(二川宿本陣資料館館長)

高名な連歌師・肖柏をテーマとした六曲一隻の大きな屏風です。その落款・印は『平安蘆雪寫 魚印』とありますが、魚印は右肩欠損なので寛政5年以降で蘆雪晩年の作ということになります。

さて、蘆雪といえば、多忙な師匠・円山応挙の名代で訪れた南紀の諸寺院や旧家で140点もの作品を描き、その才能を大きく開花したことが知られています。その中でも、一番に挙げられるのが南紀串本の無量寺にある《龍虎図》であろうと思います。それは、無量寺方丈室中の間に虎と龍が向かい合わせに配置されたもので、莊厳な雰囲気を醸し出しています。(重要文化財の原本は併設の串本応挙蘆雪館で見学可能)

《虎図》は、大きな岩を後足で蹴って飛び上がり、前足で今にも着地する瞬間の虎の姿を8面の襖に描いています。一方、《龍図》は、雷鳴轟く天空で下方を伺う龍を描いていて、下に流れ滴るような墨のにじみが水分をたっぷりと含んだ雨雲の様子を見事に描いた作品となっています。蘆雪は、こうした墨の持つ特性を効果的に使いながら画面構成を考えることのできるスペシャリストでもありました。この躍動感溢れる画面の説明は、実際に見ていただくのが一番と思います。

他には、墨のぼかしを朧月夜や湿気のある空間に利用するなど、我々にとっては驚くばかりの表現方法を使っています。そこに蘆雪の蘆雪たる所以があると感じているわけですが……！

ところで、昨年の6月頃、「美の巨人たち」というテレビ番組で蘆雪の《白象黒牛図屏風》(プライスコレクション)が紹介されました。私の好きな作品の一つでもあります、右側の屏風には画面からはみ出した白い象と象の背中の小さな黒いカラスが2羽描かれています。さらに、左側には画面からはみ出した黒い牛と牛の足元



プライスコレクション 《白象黒牛図》左隻

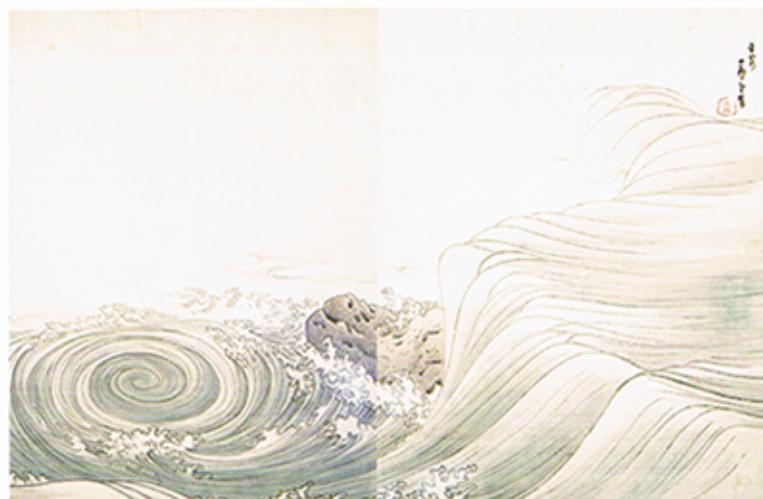
に白い子犬が2匹描かれています。各々最初に真中を開いても屏風を完全に聞くまでは何が描かれているかわからない訳ですが、聞いていく内に“ええ～！”、左右並べて“あ！ そうか！”となるわけです。白と黒、大と小の対比を巧妙に駆使した蘆雪画のマジック、ここに極まれり！といった感じです。

さて、「蘆雪寺」として、その名を全国に知らしめている豊橋市嵩山町の正宗寺には、重要文化財旧方丈障壁画45幅と何点かの蘆雪画が伝えられています。これらは蘆雪画を語る上では、その魅力もさることながら美術的価値もひとくわ高い作品ばかりです。

この内、美術的に見れば、《波涛図》12幅が旧方丈障壁画45幅の中で最も優れている作品と考えられます。もし、江戸時代に修理された方丈に、この作品が使われていたなら、方丈の中心をなす仏間から室中の間にかけて左右の襖に描かれ、渦を巻く大波や岩礁に押し寄せる波が、遠景(仏間)に向かうに従って小さな波となり、やがては雲間に消えるという、巧みな奥行きと広がりを表現する素晴らしく莊厳な空間となつたことでしょう。ただ、引手跡が無いことから一度も襖仕立てにならずに現在に伝わったものと考えられています。逆に、そのことで《波涛図》が今まで、ほぼ完全なコンディションで伝わった理由になったとも言えます。

このように、当時の京都画壇に写生という革新的な新風を吹き込んだ師・応挙にも増して革新性と類稀なるエンターテイメント性を併せ持つ画家・長澤蘆雪。その魅力とは一体何でしょうか？ 3点ほど挙げたいと思います。

まず、①画面上の人物の表情がとても豊かで生き生きとしている点があげられます。これは動物も同じで、人間のように擬人化して表情豊かに描いている点です。次に、②先ほども触れていましたが墨を効果的に使っている点です。具体的には墨の滲みを有効利用し、画面を潤滑



正宗寺 《波涛図》部分（重要文化財）

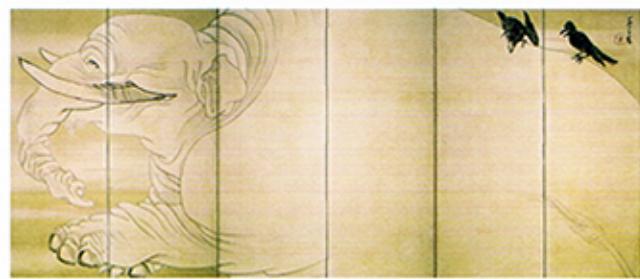
で柔らかな自然描写としています。目に見えない大気の肌触りや岩肌などの質感の表現に蘆雪独自の世界を築き上げている点です。3点目は、③奇抜な発想から大胆極まる構図で見る者を驚かせ楽しませている点が挙げられます。大と小、白と黒、動と静など対比の面白さは他の追随を許さないほどです。こうした点が、スタイルの違いこそあれ同時代の若冲や蕭白と並び称される所以となっています。

このように、この紙面では語り尽くせないくらい素晴らしい楽しい蘆雪画ですが、やはり実際に見ていただかないと、その素晴らしさはなかなか伝わらないと思います。今後、蘆雪に関する展覧会や様々な情報をキャッチして、その機会に足を運んでいただければと思います。

ところで、長澤蘆雪の眠る墓は、京都市上京区東豈町御前通の浄土宗・回向院にあります。回向院は仁和小学校北隣、北野幼稚園東隣にあり、子供たちの賑やかな声が聞こえる中にひっそりと佇んでいます。山門の前には「蘆雪の墓此寺にあり」と刻まれた標石が立っており、その存在を明らかにしています。境内に入り墓地に近づいていくと【長澤蘆雪之墓】という標石がたっており、そこに「南舟院澤誉長山蘆雪居士」の墓石があります。そこに夭折した三人の子供・養子で画家の芦洲・先祖とともに静かに眠っています。

付近には、日本画の巨匠・速水御舟の最高傑作の一つでもある「名樹散椿」(重要文化財、山種美術館)や平川敏夫「椿樹」(豊橋市美術博物館)の椿のモデルともなった椿寺(地蔵院)をはじめ梅で有名な北野天満宮があります。

京都に旅行される折に訪れてみてはいかがでしょうか。



プライスコレクション 《白象黒牛図》右隻

白抜技法の秘密 ～ワークショップ潜入ルポ

望月志郎(621)

去る2月11日まで、豊橋市美術博物館では「墨のいろ」と題する展覧会が行われていました。いずれも見事な作品ばかりでしたが、平川敏夫さんの《雪后閑庭》は輝くような雪景色を描いた屏風絵の大作で、どうしたらこんな風に描けるのか、感嘆というより不思議な気持ちになりました。これは白抜技法という水墨画独特的技術を駆使しているのだそうですが、これを体験できるワークショップが2月9日に行われるというので、その現場に潜入してみることにしました。

講師は平川先生と長年お仕事を共にされた三木登先生、そして師範代のような3人の先生方。受講希望者はキャンセル待ちという状況で、当初の定員20人を24人に増やしての開催ですから、この技法がいかに関心を集めているかが分かります。参加者のほとんどは60代以上と思しき方でしたが、中に若い方も交じり、最年少は中学1年生でした。この中1少女は、最初はちょっと戸惑った様子でしたが、できあがった作品は実にすばらしいものでした。



さて、受講者はまず豊橋公園に出てスケッチをしました。私も紙と鉛筆を渡され、スケッチをするようにとのことで、絵なんぞは中学の図工の時間以来、描いたことはないのですが、仕事で配置図やらイメージ図やらを書くことが多いので、なんとかなるさと思ったのが大間違い。土星の上の巨木と走り根を描こうとしたのですが、これが全然思うように行きません。目で見た通りに描くのはいかに大変かということを思い知りました。

スケッチは15分ぐらいで終えて、今度はそれを色紙に写します。色紙は普通の鳥の子紙ではなく、網張りの絹本といわれるものでした。1枚千円ぐらいだそうで、受講料千円は実は大変お得なものでした。ここから三木先生がお手本を示し、まず、マスケットという

白抜きインクを使い、白く残したい部分に塗ります。マスケットなどの塗装をするときに、マスキングテープというものを張って塗り分けをしますが、マスケットインクは液体ゴムみたいなもので、それを塗ったところには墨が塗ないので、後でラバークリーナーという目の粗い消しゴムみたいなものでこすりとれば、白抜きができるというわけです。



マスケットが乾いたら色紙に水を塗ります。これはたらし込みという技法だそうで、墨をにじませる効果があります。ここに薄墨を塗ると面白いにじみが出ますが、さて、この続きを知りたい方は、美術博物館へお問い合わせください。問い合わせが多ければ同様のワークショップが行われるかもしれません。初心者でも面白いですから、チャレンジするといいですよ。

予定の3時間があつという間に過ぎるほど私も楽しく制作をしましたが、お二人の学芸員が私の色紙をちらっと見て、異口同音に「前衛的ですね」とおっしゃいました。家に持ち帰ると妻が「どっちが上なの」と聞きました。翌日、遊びに来た孫が「あ、天狗さんが土俵入りしているみたい」とつぶやきました。金輪際、絵筆は取らんぞ!と思いつつ、もう一度描いてみたいなという気持ちがこみ上げるほど、白抜技法は面白いものです。



自作を手に三木登先生と

会員更新手続きをお願いいたします！

平成26年度の会員更新手続きをはじめます。次年度も、美術講座やミニコンサート、研修旅行の開催など、会員の皆さんに楽しんでいただける企画を予定しています。お早目に更新手続きをお願いいたします。

※下記のいずれかの方法により会費をお支払いください。

- ①美術博物館 窓口にて会費をお支払いください
- ②郵便局 同封の払込票をご利用ください(手数料無料)
- ③銀行 下記口座へお振込みください(手数料有料)

三菱東京UFJ銀行 豊橋支店
普通 4806768
口座名：豊橋市美術博物館友の会



富安昌也「モスタルの道具屋」

26年度会員証

平成26年度 展覧会スケジュール

※太字は有料展

美術博物館		会期
第36回豊橋美術展	〔写真・書道 〔絵画・彫刻・デザイン〕	4月29日(火)～5月4日(日) 5月6日(火)～5月11日(日)
豊橋市美術博物館「新」収蔵品展		5月31日(土)～7月27日(日)
開館35周年記念 安野光雅「旅の絵本」の世界展		7月12日(土)～8月17日(日)
嵩山蛇穴と縄文のはじまり		8月2日(土)～9月28日(日)
第6回トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展～明日の日本画を求めて～		8月23日(土)～9月21日(日)
小企画展「豊橋の金工」		8月26日(火)～9月28日(日)
開館35周年記念 ウッドワン美術館所蔵 「近代日本の絵画名品展」		10月11日(土)～11月24日(月祝)
小松コレクション「中村正義展」		12月2日(火)～2月8日(日)
第64回豊橋市民展	〔絵画・彫刻・デザイン 〔写真・書道〕	12月16日(火)～12月21日(日) 12月23日(火)～12月28日(日)
ジョルジュ・ルオー展		2月14日(土)～3月29日(日)

※太字は企画展

二川宿本陣資料館		会期
新収蔵品展		4月26日(土)～6月15日(日)
お化け浮世絵展		7月19日(土)～8月31日(日)
館蔵浮世絵展		9月6日(土)～9月28日(日)
旅セヨ乙女		10月4日(土)～11月16日(日)
午年から未年 干支と新春の遊び展		11月29日(土)～1月18日(日)

収蔵品紹介

[新訂万国全図]

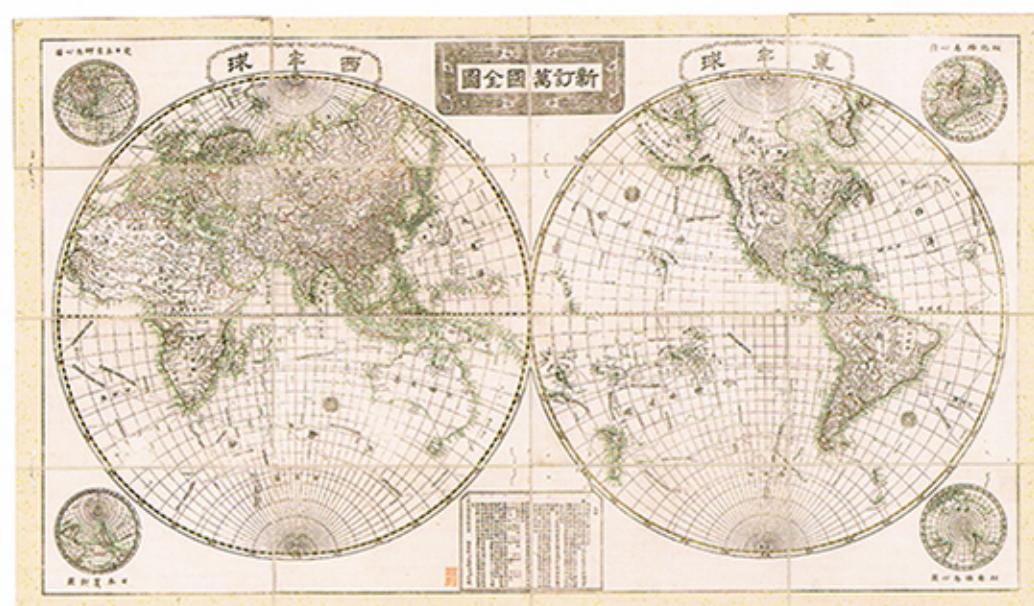
本図は蘭学系地球図の最高傑作といわれ、浅草天文台の高橋景保が幕命を受けて作成し、凡例に年記のある文化7年(1810)に手書図を完成させました。その後、間宮林蔵のカラフト探検の成果などに基づいて東アジア一帯を修正したのち、亞欧堂田善によって銅版で印刷されたのは文化13年(1816)のことです。東西の半球を左右入替えて日本を中心としたり、周囲の小さな図のひとつは京都を中心とするなど、日本出版の図としての工夫がみられます。

本資料は、江戸時代後期の吉田藩士柴田善伸が収集した数多くの地図のうちのひとつです。「新訂万国全図」と墨書きされた木箱に入れられ、裏面に「弘化二年乙巳九月九日所蔵、柴田猪助・富田小藤次・橋本黙助・川村定蔵・内藤泰助・川村勝次」とあります。当時善伸は職務を引退していましたが、吉田藩地方役所に勤務する人々により共同購入されたことがわかります。本図の出版当時、善伸は江戸で藩主の側勤めをしていた弟留吉からその情報を得ています。文化13年(1816)6月19日の状に「□問天文方に出来候銅板万国図御持帰に也拝見仕候、阿蘭陀人のよりハ見事に出来候様ニ奉存候、大サ一丸三尺余四方誠に見事ニ御座候、書林へ

高橋 景保●TAKAHASHI,Kageyasu

亞欧堂田善●AOUDO,Denzen

文化13年(1816) 銅版彩色 114.5×198.5



ハ出ましく奉存候」とあり、同年8月には代金が1両2分であることなどが知られていますが、当時は高価で買うことができませんでした。弘化元年(1844)の松井五郎右衛門宛書簡にも、かつて藩主松平信明が銅版図を持ち帰り留吉がみたこと、同信順入部の時に留吉が持参して善伸も一見したこと、また高橋景保がシーボルト事件で獄死してからは天文方で購入することができなくなったことが記されています。蘭学者大槻玄沢への書状でもこの図のことを尋ねており、本図入手は地図コレクター善伸にとって念願であったようです。

(豊橋市美術博物館主任学芸員 増山真一郎)

※柴田家文書展 吉田藩士の地図コレクション
- 地域から世界を見る - (～3/23) にて公開中

編集後記

ただ単に、美しいものを観るのが好きという理由だけで、あちこちの美術館通いを楽しんでいる。友の会の会員歴は、発足した当初からだと思う。新しい美術館を……という機運があった頃は、自分でもいろいろな美術館を見て回ったり、建築物にも興味が湧き、こんな美術館が豊橋に出来たらいいなあ！と夢想しつつ……。もとより好奇心が優先しているので、理論的裏付けは何もなく、いつまで経っても、鑑賞眼は素人ままである。

何度も友の会の研修旅行にも参加し、随分と楽しい思いをさせていただいた。永らくお世話になったせめてもの感謝の気持ちとして、ボランティア活動にも参加しているが、微々たるもの。「風伯」の編集部員として力を發揮したくとも、非力な私には如何ともしがたい。まずはこの「風伯」が豊橋市美術博物館の現在を発信し、理解を深めるための更に楽しい読み物になってゆくよう、有能多彩な編集部の

皆さんに期待することにしよう!!

(河邊満江)

【表紙作品】

《いちごチエア》 2011年
©'76, '11, '14 SANRIO APPROVAL No. SP541520
*ハローキティアート展(～3/30)にて公開中

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第88号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会

会長 宮田正人

編集長 高須博久(副会長)

編集部長 望月志郎

編集委員 鈴木冷子 神野志保子 河邊満江 藤本逸子

清水貴裕

協力 豊橋市美術博物館

〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882

平成26年2月28日発行